プラン・ニュース［2021 Summer］NO.117

PLAN NEWS



スペシャル・トーク

女の子の明るい未来をスポーツで応援！

プラン・スポンサーシップ

チャイルドへのお手紙はオンラインで！

ベトナム

早すぎる結婚の根絶を目指して

バングラデシュ

ロヒンギャの若者の教育支援

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

元日本代表ラグビー選手も参加のオンライントークイベント

女の子の明るい未来をスポーツで応援！

プラン・インターナショナルは、ラグビーを通じた社会貢献と国際貢献を目指す
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（JRFU）が、6月1日に開催したオンライントークイベント
「女性のエンパワーメントに対するスポーツの役割」の趣旨に賛同し、協力しました。
ラグビーをはじめとしたスポーツが直面するジェンダー課題や、
スポーツを通じた女の子のエンパワーメントなどについて議論した様子をお伝えします。



プランがインドで実施したプロジェクトでは、男女混合のタッチラグビーを通じて、女の子が自分の安全を確保するために、他者と交渉する自信をつけることを目指しました

「誰も排除しない」というラグビー精神のために

野口さん（以下、野口） 本日のイベントは、ジェンダー平等や女性の活躍がテーマです。元ラグビー男子日本代表選手の廣瀬さんは、ラグビーにおける女性の活躍をどのように見ていらっしゃいますか？

廣瀬さん（以下、廣瀬） 7人制の女子ラグビーは、オリンピック競技大会で、日本もトップレベルの選手が多く活躍していて頼もしいですね！ 同時に、女性の選手がもっと活躍できる環境や制度を整えるなど、まだまだ男性側がサポートするべきことがたくさんあると思うので、お手伝いしたいです。そうでないと、ラグビーの精神である誰も排除しない、ＮＯＳＩＤＥの精神は達成できないと思うんです。女性が抱える問題やジェンダーによる課題を、男性が一緒に議論することは重要だと考えます。

野口 中嶋さんは、現役選手を続けながら指導者もされていて、さらに妊娠・出産も経験しながらラグビー界に関わり続けています。女性の選手として、どのような困難がありましたか？

中嶋さん（以下、中嶋） 娘を出産し、復帰するときは、思うように睡眠や食事の時間を大切にできないなど、色々な壁にぶつかりました。でもそういう壁を乗り越える強さを教えてくれたのは、個性やその人らしさを尊重するラグビーの存在です。また、女性のラグビーは男性に比べて環境が整っていないこともあるからこそ、自分たちで考えて柔軟に変化できるよさもあります。スポーツで壁にぶち当たったけれど、スポーツで乗り越えることができました。



モデレーター：JRFU普及育成委員会国際協力部門員　順天堂大学スポーツ健康科学部助教　一般社団法人S.C.P.Japan 共同代表　野口亜弥さん（左上）。登壇者：弘前サクラオーバルズ選手兼スタッフ元ラグビー女子日本代表　中嶋亜弥さん（左下）、プラン　リレーション開発部　楠祐子職員（右上）、株式会社HiRAKU 代表取締役　元ラグビー男子日本代表キャプテン　廣瀬俊朗さん（右下）

野口 女の子自身、そして地域の皆さんに対してどのような効果がありましたか？

楠 例えばガーナでは、サッカーを通じて女の子たちが自信を持てるようになり、自分の意見を堂々と言えるようになりました。自分を大切にし、将来についても前むきに考えるようになるなどの変化がありました。地域の男性をはじめ、兄弟や父親、母親も、女の子たちが自信を持ち、積極的に物事に取り組むように変わったことをきちんと受け止め、彼女たちを応援するようになっています。また、サッカーをすると村中の人が集まってくるので、意識啓発の機会にしています。観戦の場は、地域の人びとが女の子の問題を知り、解決にむけてともに行動するきっかけとなるのです。

中嶋 スポーツって私たちが思っている以上の力があるんですね！ 大きな声を出すとか自分の意見を言うといったスポーツの場で出してみた勇気が、将来を前むきに考えることにつながっていくというのがすごいですね。

廣瀬 以前、別のＮＧＯのスポーツフェスティバルへの参加でガーナに行ったのですが、おっしゃる通り、試合を始めたら驚くほど人が集まりました（笑）。スポーツで地域の人がひとつになるということを感じましたね。意識啓発として、男性が女性と一緒に性について学んでいるのも印象的でした。女の子が早すぎる妊娠をすることもあるなかで、男性も性の知識を持つことは大切ですよね。

楠 プランでは、今後もスポーツの持つ力に期待します。プレイする、見る、参加する、それぞれに社会を変えていく色々な可能性を秘めていると思います。

廣瀬 確かに、スポーツだからこそできる社会を変える力はありますよね。それを信じて、性別を超えて一緒に手を取りあって頑張っていきたい。まだまだ伸びしろがあると思います。

中嶋 スポーツをしていると、女性って強いなと思うことがよくあります。本日のテーマは「女性のエンパワーメントに対するスポーツの役割」でしたが、むしろ女性がスポーツをすることで、人がもつ豊かさや強さを示して社会全体をエンパワーメントできるのではないか？ と思うくらい女性はたくましい（笑）。ラグビーもサッカーも男性に比べて競技人口が少なくて仲間がいないと思う女性もいるかもしれませんが、自分がスポーツすることが周りにポジティブな影響を与えるかもしれないということをぜひ知ってほしいです！

野口 中嶋さんのようにラグビーに長くかかわる女性を増やすために、クラブやラグビー協会と一緒に取り組んでいきたいことはありますか？

中嶋 ラグビーのために生きる「ＦＯＲ ラグビー」ではなく、一緒に生きていく「ＷＩＴＨ ラグビー」を提案して、ラグビーに長く携わっていく女性が増えたら嬉しいですね。そのために心がけているのは、チームとして強くなることはもちろん、女性選手としてどういう姿を世界に発信したいのかをみんなで話し合うことです。例えば、日本人が伝統的に理想とする〝しとやかな女性〟というのは、ラグビーで勝つための要素としては真逆です。そのなかで、新しい日本女性の力強さや美しさってなんだろう、ってチームでディスカッションすることもあります。

スポーツを通じて女の子が自信を持つ

野口 プランはこれまで開発途上国において、スポーツをツールとして社会のジェンダー課題に取り組んできたとお聞きしました。どんなプロジェクトでしょうか？

楠職員（以下、楠） サッカーなどのスポーツを通じて、女の子のエンパワーメントやジェンダー平等の意識啓発を目指すというものです。



プランは株式会社ユニクロの支援により、2013年から2016年にわたり、サッカーを通じて、途上国の女の子たちの生きていく力を育てる「女子サッカープロジェクト in ガーナ」を実施。女の子たちは自己肯定やチームワークを学び、中途退学率が低下したという効果も見られました

VOICES スポーツが私たちに教えてくれたこと

プジャさん（18歳、インド）



タッチラグビーを始めてからは自信がつき、ユースグループとして地域の問題や、女の子に影響を与える問題に取り組んでいます。女の子が男の子と一緒にスポーツをすることに強い抵抗感を抱いていた保護者たちも、女の子自身が説得し、今では40％が女子で構成されるしっかりとしたチームになりました。

ゲイトリーさん（23歳、バングラデシュ）



私は15歳の時に両親を失い、それ以降は生活のため教育を受けることができませんでした。7年前に参加したプランのプロジェクトは、若者が自分の権利について知り、暴力から身を守ることができるようにするものでした。その中の武術トレーニングがきっかけとなり、自信をもち、自分自身を守ることもできるようになりました。

より早く、より便利になりました

チャイルドへの手紙はオンラインで！

手軽に手紙を送ることができると、多くのスポンサーの方に活用いただいているオンライン手紙送信フォーム。
2021年からは、便箋デザインとメッセージの選択肢が増え、ますます便利になりました。
ぜひフォームを活用して、チャイルドへのメッセージをお寄せください！

チャイルドとスポンサーの交流を中断しないために

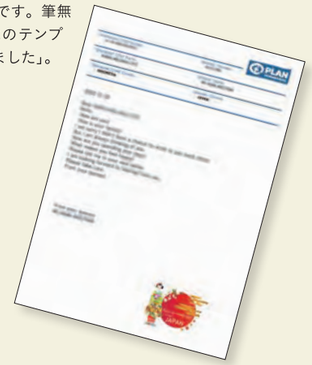
プラン・インターナショナルは今後、チャイルド宛の手紙については、郵便に代わってオンラインによる現地送付を増やす予定です。新型コロナウイルス感染症の拡大により、国際郵便物の引き受けを控える国もみられるなどの状況を考慮して、スポンサーの皆さまとチャイルドとの通信を中断させないために、オンライン化が安全・安心であるという結論に達しました。「オンラインが苦手」という方にも安心して簡単にご利用いただけるよう、今回はオンライン手紙送信フォームのさまざまな活用例をご紹介します。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年6月現在、郵送受付は停止しています。再開しましたらウェブサイトやプラン・ニュースでお知らせします。



事例❶
東京都　水谷さん

チャイルドのプロフィールで自撮り

水谷さんからチャイルドへの初めての手紙です。幼いチャイルドに長い文章を書いても情報量が多いだけと考え、シンプルに写真を送ることにしたそうです。「オンライン手紙送信フォームはとても便利です。筆無精な私にとって、文章のテンプレートが非常に役立ちました」。





プロフィールを持ったのは分かりやすさを重視したからです。自分の写真が映っていることで“知らない人”からではなく、自分に何らかの関わりがある人からの手紙だとわかり、より興味を持ってもらえるのではないかと考えました。

オンラインで手紙を送るメリットは？

1. 通常、2カ月から4カ月を要している手紙の郵送時間が大幅に短縮できます。
2. 現地事務所への郵送途中での紛失のリスクを防ぐことができます。
3. 郵送コストの節約により、皆さまのご寄付をその分さらに多くの活動に役立てることができます。

事例❷
高知県　公文さん

コラージュで日本文化を伝える

「日本を紹介して、少しでも国際理解につながるような内容も入れてお手紙を書きたいと思っていました」と、公文さん。オーストラリアに留学し現地の小学校や幼稚園で研修した経験から、写真や絵を使った方が興味をひくと考えて工夫しているそうです。「オンライン手紙送信フォームは郵送より早く手紙が送れますし、文例などもあるので便利だと思います」。



趣味で撮っている写真を季節やイベントごとにコラージュして、ポストカードのような形にしてみました。チャイルドの家族や友だちも一緒に見て楽しんでもらえるのではないかと思います。

事例❸
東京都　高田さん

写真を工夫してチャイルドと楽しく交流！

「手紙をきちんと受けとって読んでいることをわかってもらえるようにチャイルドの手紙を写真に入れました」と、高田さん。まだ文字が書けないチャイルドには写真の方がわかりやすいかなと考え、写真に工夫を凝らしたそうです。「オンライン手紙送信フォームでは、自分が送った手紙をPDFで見ることができたらもっといいですね」。



ただ単に「この絵は何を描いてくれたの？」という質問だけだとそっけないかなと考え、日本の野菜の紹介も兼ねて、絵に似たキャベツとみかんを手に持った写真を撮りました。

よくあるご質問に答えます！

Q オンライン手紙送信フォームは、何回でも送れるのでしょうか？

チャイルドへのお届けはコミュニティ・ボランティアが担当しています。そのため、スポンサーの方には1年に2回〜3回程度を目安としてお願いしています。（現在は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、状況によってお届けが限られる地域もあります）

Q オンライン送信による個人情報の漏洩が心配です。

データは暗号化されるなど、漏洩を防ぐ仕組みを利用しています。また、プランの個人情報保護方針にのっとり、皆さまの個人情報は適切に扱っています。

Q オンライン手紙送信フォームで手紙を送りましたが、写真の添付を忘れました。どうすればよいですか？

写真の添付忘れに気がついた場合、お早目に以下の問い合わせ先までメールでお送りください。メールの件名を「写真添付」とし、スポンサー番号/名前、チャイルド番号/名前を書いてください。なお、添付可能な写真は5MB（1ファイルのみ）とさせていただきます。
問い合わせ先：letter@plan-international.jp

オンライン手紙送信フォームはこんなことが魅力！

- **8種類の便箋を用意しています。チャイルドの好みや季節に合わせて選んでいただけます。**
- **何を書いていいのか悩むという方のために、定型文を用意しています。もちろん、自分のオリジナルのメッセージでも送ることができます。**
- **画像を添付することができます。チャイルドはスポンサーに興味津々です。どんなお顔をしているのか、何が好きなのか、どんなふうに暮らしているのかなどを伝えるには、写真が役立ちます。**
※5MB（1ファイルのみ）まで

オンライン手紙送信フォームはこちらから

https://www.plan-international.jp/form/letter_sc/

マイ・プラン・ページにログインすると、送信フォームへの入力がさらに楽になります！

ベトナム

少数民族の女の子たちが直面する早すぎる結婚の根絶を目指して

18歳未満の女の子が結婚・出産する「早すぎる結婚」。
アジアでは特にネパールやバングラデシュで顕著な問題となっていますが、
実はベトナムの少数民族の間でも、長年、同様の問題が続いています。
プラン・インターナショナルは、ベトナムにおける早すぎる結婚の根絶を目指し、
本格的な活動を開始しました。その内容についてご紹介します。



子どもを抱える10代の母親



ベトナムが抱える問題

ベトナムでは近年、高い経済成長が続いていますが、少数民族が多く暮らす遠隔地などはその恩恵にあずかれず、貧困率は高いままです。プランの活動地域では衛生設備などの不足や学習環境の未整備のほか、根強く残る男性優位の慣習により、女の子の早すぎる結婚・妊娠が問題です。加えて自然災害の頻発が、経済的な損害と貧困の連鎖に多大な影響をおよぼしています。



少数民族の女の子

少数民族コミュニティで早すぎる結婚が多い理由

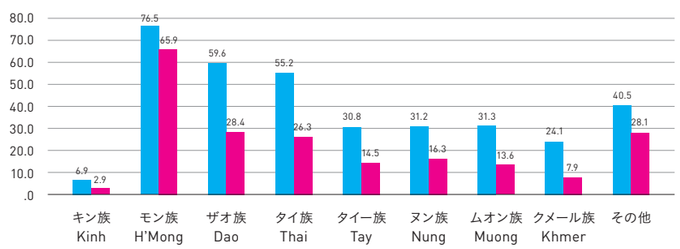
世界では約5人に1人の女の子が18歳未満で結婚しており、その数は約6億5000万人と推計されています。[1] アジアは早すぎる結婚をする女の子が多い地域の一つです。

ベトナムでは特に農村地域の少数民族で早すぎる結婚の割合が高く、問題は深刻です。2014年に女性は18歳、男性は20歳を結婚可能年齢と定める法律が制定されましたが、早すぎる結婚をする割合は全国平均が2・6%であるのに対し、たとえばハザン省やライチャウ省に暮らすモン族の場合だと、実に53・4%の女の子が18歳未満で結婚しています。[2]

こうした現状の背景にあるのは、やはり貧困です。少数民族が多く暮らす北部の地域では経済発展が特に遅れており、ベトナムの主要民族であるキン族の貧困率が2・9%であるのに対し、少数民族のモン族では65・9%、ザオ族では28・4%となっています[3]（下記グラフ参照）。また、少数民族の社会に根強く残る男性優位の慣習により、女性は教育や職業技術習得の機会が少ないこと、若者に性と生殖に関する知識が少ないため、予期せぬ妊娠をして結婚せざるを得ないことなどもあげられます。

早すぎる結婚をした女の子は学校を中途退学することが多く、それは将来収入を得る機会を失うことにもつながります。また、年齢の若い妻は家庭内で地位が低く、発言権が与えられない、身体が未発達な状態で出産することで健康が損なわれるなどの問題に直面します。

民族による貧困の割合





早すぎる結婚の防止について話し合う子どもたち

アジアにおける「早すぎる結婚」根絶のためのプロジェクト実施国



プロジェクトを通じて地域全体の意識を変える

本プロジェクトは、ベトナム北部のハザン省ホアンスフィ郡、シンマン郡、ライチャウ省フォントー郡を対象に、地域の子ども、若者、保護者、地域住民、行政関係者などが、早すぎる結婚の弊害や女の子に差別的な社会規範に気づき、意識と行動を変えることを目標としています。また若者が職業技術を習得し、貧困をなくすことを通じて、女の子が自らの意思で人生の選択ができるようになることを目指します。具体的には、3年をかけて以下の活動を実施する予定です。

1. 若者の能力強化、意識啓発

- 女の子、男の子を対象とした早すぎる結婚の防止、ジェンダー平等などに関するトレーニング（約1000人）
- 学校やコミュニティにおける早すぎる結婚の防止に関する意識啓発活動（大人・子ども 約1万3000人）
- 若者による早すぎる結婚に関するキャンペーンや調査

2. 若者の収入向上支援

- 男女の若者（15～24歳）を対象とした農業・畜産技術トレーニング、起業支援（約3100人）
- 生計活動についての情報共有、ジェンダー平等促進、よりよい地域作りのためにユースが活動するユースクラブの設立・運営支援
- 生計活動の技術指導や情報収集のための研修センターの建設および備品支給（13カ所）

2030年までに早すぎる結婚の根絶を

プラン・インターナショナルのアジア・太平洋地域統括事務所は、2025年までにアジア地域の早すぎる結婚を半減させ、2030年までに根絶することを目指して、2020年に早すぎる結婚根絶のための地域プログラムを開始しました。日本のプランではすでに複数の国で早すぎる結婚防止のための活動を実施していますが、新たにこの地域プログラムへの支援も行っていきます。

地域統括スタッフからのメッセージ

コロナ禍で悪化が懸念される早すぎる結婚に立ちむかいます



ラサ・セクロビック職員
アジア・太平洋地域統括事務所
子どもの保護およびパートナーシップ地域統括

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020～2030年の間に新たに1300万件の早すぎる結婚が発生すると推計されており[4]、状況の悪化を懸念しています。プランは、早すぎる結婚防止のために、特に就学継続、若者の収入向上、ジェンダーに基づく暴力からの保護、性と生殖に関する健康と権利の促進の4つの分野に力を入れて取り組んでいきます。日本からの支援により、昨年は各国が実施するプロジェクトの成果や、地域の早すぎる結婚に関連した状況をモニタリングするためのフレームワークを策定しました。今年は、早すぎる結婚の防止に取り組む活動実施者や政策策定者が使用できるツールキットを作成し、2030年までに早すぎる結婚を根絶するという目標にむけて議論を活性化させ、法律や政策の改善を推進する予定です。

1 UNICEF, Child marriage around the world, Infographic, March 2020, https://www.unicef.org/stories/child-marriage-around-world
2 General Statistics Office of Viet Nam, Results from Population change and family planning survey as of 1/4/2014
3 UNDP Viet Nam, Multi Dimensional Poverty in Viet Nam, https://www.vn.undp.org/content/dam/vietnam/docs/Publications/MDP-full-E.pdf
4 UNFPA, Impact of the COVID-19 Pandemic on Family Planning and Ending Gender-Based Violence, Female Genital Mutilation and Child Marriage, 27 April 2020, https://www.unfpa.org/sites/default/files/resource-pdf/COVID-19_impact_brief_for_UNFPA_24_April_2020_1.pdf

新しい「ガールズ・プロジェクト」がスタート！

- 女の子の未来を奪う

「早すぎる結婚の防止」プロジェクト

2021年7月から新プロジェクトが始まります。
詳細はウェブサイトでご覧ください。

バングラデシュ

ロヒンギャの若者の教育支援
17歳のスゥエの日常に起こった変化

ミャンマーのイスラム系少数民族ロヒンギャは、国籍を奪われ、さまざまな権利を制限された生活を送ってきました。さらに暴動と軍の掃討作戦により、2017年以降、70万人以上のロヒンギャが土地を追われ、難民として、隣国のバングラデシュに逃れています。これまで一度も学校に通えず、読み書きすら学べなかった難民キャンプの若者たちを対象に、プラン・インターナショナルが行っているプロジェクトについてお伝えします。



スゥエは17歳のロヒンギャの女の子。以前はミャンマー北部のラカイン州に住んでいましたが、軍による迫害から逃れるため、4年前に両親と一緒にバングラデシュの難民キャンプに移り住みました。今は母親と弟の3人で暮らしています。母親は難民キャンプに来てからぜんそくが再発し、ときどき薬を飲んでいるのですが、なかなかよくならず、スゥエが家の仕事をしています。

10歳の弟は難民キャンプ内の学校に通っていますが、スゥエは15歳を過ぎてしまったので対象外です。キャンプの外に出る自由はなく、友だちも少なくいつも一人でした。



難民としてキャンプで暮らしている若者の多くは、一度も学校に通ったことがなく、読み書きや簡単な計算をすることもできません。スゥエは買い物をするとき、全部でいくらになるかわからないので、お店の人に言われるがままにお金を渡していました。

また、字が読めないので、母親が飲んでいる薬が正しいものなのか心配でしたが、どうしたらよいのかもわかりませんでした。



難民キャンプでは、スゥエのような若者たちへの支援はほとんどありません。そこでプラン・インターナショナルは、若者への教育支援プロジェクトを始めました。スゥエも通いたいと思いましたが、周囲の大人は女の子には教育はいらないといい、母親もスゥエが学習支援を受けることを許してくれませんでした。

ある日、学習支援の担当者とプランの職員がスゥエの家を訪れ、スゥエと母親と話をしました。そして母親は、クラスが男女別で、近所に住む先生の家で安全に行われることに安心し、スゥエがクラスに入ることに同意してくれました。スゥエはこれから始まることにとてもわくわくしましたが、今まで学んだことも、学校に行ったこともなかったので不安もありました。



若者を対象としたクラスが始まりました。クラスにはスゥエと同じくらいの年齢の若者や、若いお母さんも参加していました。アルファベットの読み書き、計算などの初めての学びはとても疲れましたが、同時に楽しく、今まで感じたことのなかった気持ちがたくさんわいてきました。

字が少し読めるようになると、身の回りに書かれていることもわかるようになり、とてもうれしくなりました。受け取るだけだった情報も、自分から調べることができるようになり、スゥエの日常は変わりました。たとえば、母親の薬には子ども用と書かれていました。大人用のぜんそくの薬を手に入れ、母親に渡すと、とても喜んでくれました。

クラスでは学習だけでなく、自分が困っていることや将来の夢について話す時間もありました。スゥエは他の若者たちの話を聞いて、困っているのは自分だけではなく、それぞれに違う問題を抱えていることに気づいたといいます。

スゥエはクラスに参加したことで、少しずつできることが増えて自信がつきました。そして、困難ななかでもみんな将来の夢を持っていることに勇気づけられたといいます。嬉しいことに母親のぜんそくも、正しい薬を飲み始めてからよくなってきているようです。

スゥエは友だちといつもこう話しています――「難民キャンプでの生活は、いつ終わるか先の見えない状況だけど、夢を持ち続け、できることをたくさん増やしていきたい」。

スゥエは今、困難な状況のなかで、病気に苦しんでいる人たちに正しい治療と適切な薬を処方できるような医師になりたいと思っています。



難民の若者の未来を支える活動です



解説：プログラム部　倉橋功二郎職員

現在、バングラデシュ南部の難民キャンプには、88万人以上のロヒンギャの人びとが暮らしており、半数以上が18歳未満の子どもたちです。2017年にロヒンギャ難民が大量流出してから難民キャンプ内の教育環境は少しずつ改善されましたが、15歳から24歳の若者の80％以上は未だに学習支援を受けることができていません。就労の機会も限られているため、多くの若者たちは何もすることがなく日々を過ごしています。

2019年より開始した「ロヒンギャの子どもの保護と教育」プロジェクトは、難民キャンプの中でも非常に珍しい、若者に特化した教育支援の活動です。ロヒンギャの若者に研修を行い、研修を受けた若者がコミュニティ内の非識字の若者に読み書きや簡単な計算を教える仕組みづくりをサポートしています。

「グローバル・プロジェクト」のご支援をお願いします

●少数民族の子どもの未来を支える
「ロヒンギャの子どもの保護と教育」プロジェクト（ミャンマー・バングラデシュ）

ご寄付や活動詳細についてはウェブサイトをご覧ください



アデコ株式会社
Business Planning本部長
西村正一さん

世界中の社員と関係者のスポーツ活動量が寄付に

2018年から、プランは人財サービスのグローバル企業・アデコグループが取り組む社会貢献活動のチャリティパートナーに就任し、ベトナムにおける若年層の就業支援にむけた協働を行っています。同プログラムについて、アデコグループジャパンにお話をうかがいました。

スポーツをすればするほど社会貢献できる取り組み

アデコグループは、60の国と地域に5000を超える拠点を持つ総合人財サービス企業です。経営戦略の根幹にSDGsを据え、あらゆる人財と企業にHRソリューションを提供するなか、2010年から「Win4Youth（ウィンフォーユース）」プログラムに取り組んでいます。

「Win4Youth」とは、当社社員をはじめ、取引先企業や派遣社員の皆さん、家族、友人といった関係者がそれぞれ好きなスポーツを行い、目標とする活動時間の達成に応じた金額を寄付に充てるといった活動です。スマートフォンアプリに「マラソン・ウォーキング」「サイクリング」「水泳」「ヨガ」「卓球」など、自分が行ったスポーツを登録し、その活動時間に対して寄付額が決まります。

ベトナムの貧困層へITに特化した就労支援

2018年にプラン・インターナショナルをチャリティパートナーとして迎えてからは、「Win4Youth」の寄付によってベトナムの「Fit for the Future」プロジェクトを支援しています。

このプロジェクトはベトナムの18歳から30歳の女性を中心とした貧困層の若者約800人を対象にIT分野の就職機会を提供するものです。

このほか、アデコグループジャパンの社員3人がプランのチャリティランナー※となりました。

ランナーの選定では、社内で定めた2カ月間のスポーツ活動量がもっとも多かった人に出場権を与えるとしたため、全社における活動率が前月比130%に増加しました。マラソン練習会などのイベントに参加した社員も多く、平日夜にプランが行った練習会には応募が殺到し、定員にあふれる者が出たほどでした。

支援プロジェクトがいい刺激になった

「Win4Youth」は、グループ全体で同じスポーツをするメンバーの活動量ランキングや、自分の活動量に対する寄付額が確認できることもあり、社員の健康維持につながっています。さらに、プランとパートナーシップを組み、ベトナムの支援プロジェクトが行われていることや、チャリティランナーとして走るといった名誉は、より社員を刺激し、活動することの励みになっていると感じます。

「少子高齢化」「労働力人口減少」「デジタルへの対応」などの日本が抱える課題を解決して社会を変えていくためには、仕事にやりがいを持って躍動する人財の輩出と、人財が躍動できる環境の創出が欠かせません。多くの国と地域でグローバルに活動するプランと弊社グループの強みを生かして雇用・労働における女性や若年層を支援していけば、一人ひとりのスキルや可能性が広がり、社会への大きな貢献につながると確信しています。

※プラン・インターナショナルは東京マラソン2021チャリティ事業の寄付先団体です





（上）社内で企画したマラソン練習会に参加したメンバー
（左）ベトナムで行われているプロジェクト。障害者施設で行われたITトレーニング生募集のためのワークショップ。

ベトナムの「Fit for the Future」プロジェクト

近年、急速な経済成長を遂げるベトナムですが、その恩恵を受けるのは都市部の富裕層が中心で、プランが活動する農村部や少数民族の村に暮らす人びとは国の発展から取り残されています。当プロジェクトでは、地元の職業訓練センターや教育機関と連携し、ベトナムの18〜30歳の貧困層の若者、特に女性を育成しています。特に男性が優勢なIT分野は需要も大きいので、女性の就職機会を増やすよう働きかけています。

境遇に負けない学力を身につけ女の子でも羽ばたける社会を

プラン・スポンサーシップを長年にわたり続けてくださっている辻村恵子さん。今回、お母さまの今井和子さんの意向を受け、辻村さんが窓口となり、ヨルダンにおける「シリア難民の女の子の能力強化プロジェクト」にご支援くださいました。



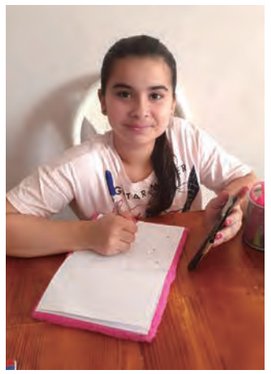
今井和子さん



辻村恵子さん

今井和子さんと辻村恵子さん親子。これまでもさまざまなプロジェクトに親子で参加してくださっています





自宅でオンライン学習を行う女の子たち



自宅学習用のタブレットと一緒に支給された製品。寄付者として今井さんのお名前が明記されたシールが貼られています

教育支援に役立てたい母の想いを娘が実現

今回のプロジェクトは母である今井和子が寄付を希望し、私、辻村恵子が事務手続きなどを行いました。

教育一家で育ち、戦中、戦後と自らも教壇に立っていた母は、以前から「自分の死後、少しでもお金が遺ったら、教育関係の支援団体に寄付して欲しい」と言い、年金生活の中でもコツコツ貯金をしていました。

ところが、母にとっては幸か不幸か、「その時」がなかなか訪れないまま94歳になり、「生きているうちに寄付してもいいかもしれないわね」「同じ金額なら日本よりも途上国のほうが、多くの人々の役に立つと思う」と言い始めました。

私は長年プラン・スポンサーシップを続けている関係から、事務局に相談したところ、ヨルダンにおける「シリア難民の女の子の能力強化プロジェクト」をご提案いただきました。

ヨルダンもシリアも遠い異国ですが、今も新聞をよく読む母は、シリア難民問題のことも知っていました。母は「女性も手に職を持って自立することが大事」という考えを持っていましたから、難民という境遇におかれ、教育の機会を奪われたり、家庭内暴力を受けたり、児童労働や早すぎる結婚を強いられたりするなど、より過酷な状況に置かれているであろう女の子たちを支援するプロジェクトは、まさに希望にぴったり沿うものでした。

力を合わせたからこそできた大きな支援

プロジェクトは当初、教室で補助授業などが行われる予定でした。しかし新型コロナウイルス感染症の影響でヨルダンが都市封鎖されてしまい、プランから「自宅学習用にタブレット端末を支給し、オンラインや電話で補助授業が行われることになった」といった変更の連絡を受けました。

こうした機器を使ったことのない母は最初少し心配していましたが、日増しに日本でも感染者が増え、企業の業務や学校の授業がリモートで行われるのが当たり前となるにつれ、「現地でのタブレット端末配布は先進的だったと思う。都市封鎖がなければ、彼らがタブレット端末などの先端機器に触れる機会もなかったかもしれないわね」と安心したようでした。

プランから届く中間報告書にも、筆記用具とスマートフォンを手に家庭学習する女の子たちの写真があり、コロナ禍でもプロジェクトを遂行するスタッフがいてくださったことは感謝の念に堪えません。

ほかのプロジェクト参加者の方々と力を合わせることで、自分の思いを形にできたことは、母にとってこの上ない喜びになりました。

1人でも多くの女の子たちが「女の子だから」と思うことなく、基礎学力を身につけて自国の歴史について学び、広い世界で胸を張って生きていってもらいたい。そしてよりよい社会を作っていってくれたらいいと思います。母も私も、この活動が今後も、地域で続いていくことを願っています。

一口100万円プロジェクトとは

個人やグループ、企業などが共同でひとつのプロジェクトをご支援いただく方法です。複数の支援者と一緒に支援することで、活動地域に大きな成果をもたらすことができます。

アドボカシー

「日本のユース女性の生理をめぐる意識調査結果」を発表

アドボカシーグループでは、2021年3月に15～24歳の女性2000人を対象に、生理と生理に関係する日常生活に関する調査を実施しました。「購入や入手をためらったことがある・購入できなかったことがある」と答えたのは回答者の4割近くにのぼり、その理由として「収入が少ないから」（11.2%）、「生理用品が高額だから」（9.0%）、「お小遣いが少ないから」（8.7%）のほか、「恥ずかしいから（自分で購入できない6.3%、親に購入を頼めない2.6%）」があげられました。

明らかになったのは、経済的理由で生理用品を入手できない、いわゆる「生理の貧困」だけではなく、「機会の損失」です。月経前症候群（PMS）などで2人に1人が「生理痛がつらい」と回答し、10人に3人が生理を理由に「学校や部活動、職場への遅刻や欠席、早退の経験がある」と回答しました。

生理を「恥ずかしいもの」とみなす意識も根強く残り、「学校や職場、公共のトイレを使うのが嫌」「サニタリーボックスが汚く感じる」といった回答も多くみられました。

こうした回答は、生理が若い女性の教育や就労への参加を遠ざける要因になっていることを示しています。女性が社会で自由に活躍するためには、生理に関する固定観念を壊すことが重要です。今回のレポートを情報発信や提言活動に活かすことで、社会全体でこの問題に取り組みたいと考えています。

Q.生理用品の購入・入手をためらったことはありますか？

（n＝2,000）

ある。収入が少ないから	224人	11.2%
ある。お小遣いなど自分が使えるお金が少ないから	173人	8.7%
ある。親の収入が少ないから	45人	2.3%
ある。他のことにお金を使わなければならないから	167人	8.4%
ある。生理用品が高額だから	179人	9.0%
ある。親／保護者が買ってくれないから	34人	1.7%
ある。親／保護者に買ってほしいと頼むのが恥ずかしいから	51人	2.6%
ある。自分で買うのが恥ずかしいから	126人	6.3%
ある。品切れや数量制限などで購入できなかったから	61人	3.1%
その他	12人	0.6%
購入をためらったことはない	1,178人	58.9%
答えたくない	96人	4.8%

（プラン・インターナショナルが行った調査「日本のユース女性の生理をめぐる意識調査」より）

ユースグループ

プラン・ユースグループに新メンバー

5月1日から、プラン・ユースグループに新たに17人が加わりました。

5月に開催した4日間のオンラインによるオリエンテーションには専務理事の棚田をはじめ職員も参加し、プランの活動、スタッフがどんな仕事をしているか、ユースグループが取り組んできた活動などについて学びました。

ユースグループは、プランの事務局に伴走しながらユースとしての意見を伝えるアドバイザリー担当と、日本国内のジェンダー課題を解決するために働きかけるアドボカシー担当にわかれ、活動していきます。



オリエンテーションを通してメンバーの結束が強まってきました

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

涼しい音色をはこぶ楽器　国内支援事業グループ　井上真理子 職員

マリをはじめとした西アフリカの民族楽器「コラ」（写真中央）は、半分にカットした瓢箪（ひょうたん）から作られる弦楽器です。伝統を伝える世襲制の音楽家「グリオ」により、300年以上も演奏されています。写真のCD「3ma」は、「コラ」と、マダガスカルの竹筒の弦楽器「ヴァリハ」、モロッコなどの弦楽器「ウード」の三重奏です。「アフリカのハープ」とも呼ばれる涼やかなコラの音色を聴いてみてください。



「3ma: Madagascar-mali-maroc」
Rajery / Ballake Sissoko / Driss El Maloumi
Ⓒ&Ⓟ Contre Jour



浅羽さん。似顔絵自画像を描いていただきました

＼遠い国の女の子の親になりました！／

笑顔の写真が届く日を心待ちにしています

長期的に子どもや地域の変化を見守るプラン・スポンサーシップですが、さまざまな理由からチャイルドが変更になることもあります。スポンサーの浅羽さんにお話をうかがいました。

スポンサー　**浅羽まりえ**さん
チャイルド　**ラフォン**さん（6歳）／バングラデシュ　**サファヤ**さん（8歳）／トーゴ

持続的な支援方法に共感しました

イラストレーターとして独立したら、社会貢献活動を行う団体へ寄付をしようと考えていました。特に社会的に立場の弱い子どもや動物を助けている団体を応援したいと支援先を探していたとき、友人からプラン・インターナショナルの話を聞きました。

事務局で行われた説明会に参加したところ、例えば早すぎる結婚をなくすためには、女の子の父親をはじめとする現地の男性にも理解を求めながら活動をしているなど、一過性ではなく、持続的で現実的な活動方法に共感して、プランへの寄付を決めました。

長期的な支援で成長を見守りたい

シリア難民支援やロヒンギャ難民支援などにも寄付を行っていますが、長期的な支援として続けているのがプラン・スポンサーシップとガールズ・プロジェクトです。

スタートは2017年、バングラデシュの男の子、ラフォンさんが最初のチャイルドでした。緊張した表情の写真を見ながら、ラフォンさんの似顔絵を描いた手紙を送りました。ところが、一度お返事をもらったものの、ラフォンさん一家がプランの活動地域から引っ越すことになり、交流が終わりました。

その後、チャイルドになったのがトーゴの女の子、サファヤさんです。交流を始めた2019年は6歳で、幼さが残るかわいらしい顔立ちの写真でしたが、サファヤさんもまた、硬い表情をしていました。交流を重ねていったら笑顔を見せてくれることを期待しながら、私たち家族の写真も添えた最初の手紙を送りました。



2019年から2021年までのサファヤさんの写真。年々身長も伸びて大人びてきている

浅羽さんのこれまでの交流記録





2017
支援スタート。
ラフォンさんにお手紙を送る

2018
ラフォンさんからお手紙が届く。
※イラスト3点をプランにご提供いただく

2019
ラフォンさん一家引っ越しにより、交流終了。
新たにサファヤさんと交流スタート。
お手紙を送る。

2020
1年の歩みが届く
サファヤさんからお手紙が届く。
1年の歩みが届く

2021

なかなか落ち着いて手紙を書く時間がとれないのですが、ホームページからダウンロードできる例文集「らくらく★英文手紙書きレシピ」を活用すると英文の手紙も書きやすく助かりました。自分の職業を生かしてできるお金以外の支援がないかを考え、数年前からプランにイラストの提供も行っています。

年齢、性別、国籍問わずさまざまな人に受け入れられるよう、きれいな色をたくさん使って、子どもたちの表情やしぐさも型にはめた子どもっぽさを出さないことを心掛けています。オンライン手紙送信フォームで選択できますので、ご活用ください。



これまでに浅羽さんからご提供いただいたイラスト。「四季（上段）」。（下段）「18歳おめでとう（左）」※、「学校へ行こう（右）」※
※現在は利用できません



エチオピア・スーダンで実施している「女性器切除から女の子を守る」プロジェクト

「東京マラソン2021チャリティ」を通じたご寄付をありがとうございました！

東京マラソン2021チャリティは今年10月に開催予定です。今回、新規チャリティランナーの募集はなかったにもかかわらず、たくさんの皆さまから、温かいご寄付をお寄せいただきました。今回のご寄付、計278,000円は、エチオピア・スーダンで実施している「女性性器切除から女の子を守る」プロジェクトに、大切に使わせていただきます。

10月17日に開催される東京マラソン2021では、プランのチャリティランナーに心のエールをお送りください！

CHARITY TOKYO MARATHON 2021

プラン・インターナショナルは東京マラソン2021チャリティ事業の寄付先団体です

東京マラソン2021チャリティ
公式ウェブサイト
https://www.marathon.tokyo/charity/

よくある質問のコーナー

ご支援者の皆さまから寄せられるご質問についてお答えします。

Q.「PLANレガシー１％クラブ」って何ですか？

A.遺贈・相続財産の寄付への関心の高まりを受けて、関連情報の提供や手続きのサポートを目的としたメンバーシップです。

「高額な寄付でなくてはいけないのでは」などの誤解も多いなか、「資産の1%の寄付でも、子どもたちの未来を応援する力は大きい」という思いから発足しました。詳しくは同封されているフライヤーをご覧ください。

Q.現在、現地訪問できるところはありますか？

A.残念ながら、訪問できるところはありません。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プランの活動国全てで訪問受け入れを中止しております。再開はウェブサイトにてお知らせいたします。

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか？

「プラン支援者の会」は、全国各地の支援者の皆さまが任意で活動を行っています。「ほかの支援者のみなさんと話がしたい」「志を同じくする方々と楽しく活動がしたい」とお考えの方、お近くのプラン支援者の会に参加してみませんか？

W ウェブサイト f フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai

※新型コロナウイルスの感染状況によっては断りなく中止となる場合があります。

多摩SP会 f

映画観賞会、職員報告会(二部制を予定)

- 日時：10月9日(土)　①10時～11時30分(9時30分受付開始)
  ②14時～16時(13時30分受付開始)
- 会場：立川市子ども未来センター 201会議室　立川市錦町3-2-26
- 内容：①映画観賞会「ポパティ・インク～あなたの寄付の不都合な真実～」再上映
  ②職員報告会「国際ガールズ・デー関連」
- 参加費：1人300円　※事前申込不要
- 連絡先：矢島

Mail：tama-web3@ngo-npo.org

プラン千葉 W

秋の例会

- 日時：10月17日(日)　13時15分～16時30分
- 会場：千葉市民会館　会議室　千葉市中央区要町1-1
- 内容：チャイルドへの手紙書き　ほか
- 参加費：500円
- 定員：先着30名(新型コロナウイルスのため定員が15名になる可能性があります)
- 申込締切：10月15日(金)
- 連絡先：前田

Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先：プラン・インターナショナル支援者の会担当Mail: P-kai@plan-international.jp
※「プラン・ニュース」No.118は、2021年10月上旬にお届け予定です。

プラン・スポンサーシップをご支援くださっている皆さまへ

カレンダー付きグリーティングカードキャンペーンの実施を見送ります

スポンサーの皆さまに毎年ご好評いただいている本キャンペーンですが、2021年の実施を見送ることになりました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現地への手紙の郵送が制限されていること、一時期に手紙の配達が集中するキャンペーンに現地事務所での対応が難しいのがおもな理由です。楽しみにお待ちいただいております皆さまには大変心苦しい限りです。

チャイルドへは、引き続き、オンラインで手紙をお送りいただくことができます。ぜひご利用ください。

オンライン手紙送信フォームはこちらから

「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2021」へのご協力ありがとうございました

2020年12月～2021年2月に実施した「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2021」にご協力くださいました皆さま、どうもありがとうございました。昨年に続きコロナ禍のなかでのキャンペーンとなり、はがきの集まり状況が懸念されましたが、今年も読売新聞全国版などいくつかのメディアに取り上げられたこともあり、大勢の方々が協力校にたくさんのはがきをお送りくださいました。

新型コロナウイルス感染症対策のため集計作業に遅れが生じ、全ての学校の結果は出そろっておりませんが、2021年4月現在、はがき総数25,059枚、136万2,172円のご寄付をいただいております。同様に2019年の集計作業も終了していない学校がありますので、結果がわかり次第、ウェブサイトにて全体のご報告をさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2021」のフライヤー

プラン・フレンズ主催

開発教育ワークショップを開催します
「ミッションSDGs：世界の貧困をなくすために」

プラン・フレンズは、プランの開発教育ボランティアグループです。講義やワークショップを通して、途上国の子どもたちを取り巻く問題やプランの取り組みについて伝えています。夏休みの開催ですので、ぜひご参加ください。

内容：「世界の貧困をなくすために支援プロジェクトを実施せよ！」とミッションを与えられたら、あなたは何をしますか？体験型のワークショップを通じて、途上国支援のあり方を考えます。
日時：2021年8月21日（土）
14：00～15：30
場所：Zoomによるオンライン開催
対象：小学校4年生～中学生（他学年はご相談ください）
定員：25名
申込先：planfriends@yahoo.co.jp

プランへの寄付となる商品のご紹介

JILL by JILLSTUARTが寄付付きTシャツを販売

株式会社TSIはBecause I am a Girl キャンペーンに賛同し、2021年6月～8月の3カ月間、JILL by JILLSTUARTから、売り上げの一部がプランに寄付されるバックプリントTシャツを数量限定で販売くださいます。いただいたご寄付は、ガールズ・プロジェクトに役立てられます。

Tシャツにプリントされている花は、女性の意志や強さ、やさしさのシンボルに見立ててデザインされています。詳しくは下記サイトをご覧ください。
https://store.saneibd.com/catalog/jillbyjillstuart/jj_PlanJapan_210609.html



FRONT

BACK

Tシャツフロントにはメッセージ、バックには花がデザインされています

スポーツと女の子たち

プラン・インターナショナルの活動地域から

プラン・インターナショナルでは、プロジェクトの一環でスポーツを取り入れることがあります。スポーツをすることがきっかけになり、今までの慣習から抜け出し、自分に自信がついたと話す女の子たちがたくさんいます。「女の子たちがスポーツをするなんて」と話していた保護者や地域の人びとも、スポーツが女の子に与える力に共感し、応援するようになりました。各地でさまざまなスポーツに取り組む女の子たちの姿をご覧ください！

Senegal



陸上競技で自分に自信を

セネガルではプロジェクトの一環で女の子たちは陸上競技に参加しています。スポーツをすることで自信を高め、リーダーシップやチームスピリットを身につけ、自分自身を表現できるようになりました。

Zimbabwe



サッカーの試合で宣言

ジンバブエでは早すぎる結婚防止の啓発活動としてサッカー大会が開催されました。 参加した女の子と男の子たちは、住民たちの声援を受け、有害な慣習をなくすことを試合中に約束しました。

Peru



夏のワークショップでサッカー

ペルーでは農村部に住む子どもたちの夏のワークショップにサッカーも取り入れられています。ダンスやスポーツ、絵を描くことは自分に自信をつけ、友だちや家族、先生たちとのコミュニケーションにも役立っています。

Ethiopia



マラソン大会に出場

エチオピアでは、毎年開催されるマラソン大会と同時に子どもたちのレースが行われ、たくさんの女の子たちが参加しています。今年は「今こそ女の子たちに力を。次のリーダーは彼女たち」がレースメッセージでした。



Laos

国際女性デーを記念してボールゲーム

ラオスでは国際女性デーを記念して、パレードやスポーツの試合やゲーム、ショーなどのイベントが開催されました。たくさんの人びとが参加し、女の子が教育や健康においても平等であることの重要性を表現しました。

Vietnam



応援も力いっぱい

ベトナムでは、スポーツを通じてジェンダー平等を推進するため「ハッピー・フットボール・デー」と題してイベントを開催し、女の子と男の子のよりよい関係づくりを目指しています。

プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、Instagram 、Twitterで活動国の情報や事務局の日々のあれこれを発信中！

※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

さわやかな女の子3人の写真は、パラグアイから。サッカーが人気の南米では、プロジェクトに現地の人びとが参加しやすくなるように、サッカーを取り入れることが多いです。パラグアイの「スポーツを通じた固定観念の変革」プロジェクトでは農村地域に残る固定観念やジェンダーに基づく差別からの脱却に挑戦し、男女混合チームによるフレンドリーマッチも行われています。

ご意見、ご感想をお寄せください

プラン・ニュース117号アンケート

PLAN NEWS
2021 SUMMER NO.117

表紙写真：パラグアイ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

※当面の間、ご連絡はウェブサイトの「お問い合わせ」フォームよりお願いいたします。